

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

| | | | |
|----------|------------------|-------------------|------|
| 機関名 | 早稲田大学 | 整理番号 | N02 |
| プログラム名称 | リーディング理工学博士プログラム | | |
| プログラム責任者 | 橋本 周司 | プログラム コーディネーター | 朝日 透 |

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

【総括評価】

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、5年一貫制の新専攻「先進理工学専攻」を設置し、エネルギーを課題にしたグリーンイノベーションの創出に挑戦できるグローバルリーダーの養成を目指す意欲的な取組がなされていると判断できる。特にジャーナリズムコースの実習は秀逸であり、理系学生は受講することで、広い視野を身に付けていると実感しており、俯瞰的能力を養う教育プログラムとしても優れており、十分評価できる。

産官学民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、学生の多様なキャリアパスが設計されており、本プログラムの目標達成が期待できる。企業との連携については、特に産業界から企業経験者をコンサルティング教員として雇用し、副指導に加えているほか、海外の企業において日本人以外のインターンシップ生に混じってトレーニングができています。また学生は、海外大学の学生とのシンポジウム等の共同企画などの経験を通じて、自らを見つめ、将来像を語るように、たくましく成長していると判断できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、運営側の教員が熱意をもって改善しようと努力している姿勢は、評価できる。一方で、学生自身の自己改善は功を奏しているのに対して、入学方法を始めとしてプログラム全体のシステムの改善策の効果を測るベンチマークシステムがないので、これを構築し改善を進めることも重要である。英語による指導等は順調に進んでいると判断できるが、今後は学生が日常的に英語を使う環境を整備することが期待される。

優秀な学生の獲得については、自大学出身学生の質が高まっている点は高く評価できる一方で、留学生1名、女子学生1名他大学出身学生0名となっており、多様性という観点からは、今後一層の努力が求められる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、学位審査において学生の専門分野の近い審査員を含め専攻主任、主副指導教員、コンサルティング教員、欧米教員が参加し、専門力に加えてグローバルリーダーにふさわしい資質を備えているかを確認する体制を整えている。また、学生が自身の成長をマネジメントする自己評価ポートフォリオが機能しており、その結果として、プログラムの趣旨に即した、高い意識の学生を育てることができていると判断され、十分評価できる。

事業の定着、発展については、プログラムが独立専攻として運営されており、継続性が期待される。今後は本プログラムの優れた取組を学内外に更に広報するとともに、世界で活躍するグローバルリーダーの輩出を目指して全学的な取組として継続されていくことが望まれる。